



第二次入学試験問題 [小論文] 解答例・出題の意図

コ ー ス：授業実践力向上コース

---

【出題の意図】

令和 6 年 12 月 26 日に改訂された、文部科学省初等中等教育局による「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver.2.0)」の、「(2) 生成 AI の存在を踏まえた情報活用能力の育成強化」(p.8)では、以下のような記述も併記されている。

学習指導要領解説総則編では、情報活用能力を以下の 3 つの柱に基づき整理をしている。情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計に関する資質・能力等も含むものである。

○知識及び技能（何を理解しているか、何ができるか）

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、技術に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。

○思考力、判断力、表現力等（理解していること、できることをどう使うか）

様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見いだす力や問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。

○学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。

このような学習指導要領解説の記述を踏まえて、各教科で具体的に「複数の情報を結びつけて新たな意味を見いだす力」や「問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力」を育成するための取組を例示することが求められる。その際、学校種や学年の児童生徒の発達段階に応じた育成方法や到達目標が示されるとなお良い。